

☆年間第6主日(2月11日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

### 第一朗読 (創世記 3章 16-19節)

神は女に向かって言われた。お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め彼はお前を支配する。」  
神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪(のろ)われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して土は茨とあざみを生えいでさせ、野の草を食べようとするお前に。お前は顔に汗を流してパンを得る土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵(ちり)にすぎないお前は塵に返る。」

### 第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 10章 31節-11章 1節)

皆さん、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、あなたがたは人を惑わす原因にならないようにしなさい。わたしも、人々を救うために、自分の益ではなく多くの人の益を求めて、すべての点ですべての人を喜ばそうとしているのですから。わたしがキリストに倣(なら)う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

### 福音朗読 (マルコによる福音書 1章 40-45節)

そのとき、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。イエスが深く憐(あわ)れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。イエスはすぐにその人を立ち去らせようとし、厳しく注意して、言われた。だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を

見せ、モーセが定めたものを清めのために献げて、人々に証明しなさい。」しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエスはもはや公然と町に入ることができず、町の外の人のいない所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。

### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

道端の雪も消え、少し暖かな日曜日になりました。今日の日曜日は「世界病者の日」となっていて、様々な病気に苦しんでおられる方々を思い起こし、その方々の苦しみが少しでも神さまの恵みによって回復に向かうことを祈る日です。皆さまの中にも病気で床に伏しておられる方がおられます。今日はその方々を思い起こし祈りましょう。

また今週の水曜日から四旬節が始まります。イエス・キリストが私たち人間の罪を背負い、その十字架上の死と復活によって私たち皆を御父のもとに連れて行かれることを思い、私たちの御父への回心をする日々であります。灰の水曜日に灰を受けながら、このちっぽけな私のために苦しみ復活されたイエス・キリストを思いましょう。

### 第一朗読（創世記 3章 16-19節）

女の産みの苦しみ、男の土を耕し糧を得る苦しみのもとが神のことばに反したことから始まったことが述べられています。私たちは土から造られ土にかえる存在であることも述べられています。そのような小さな存在が今や世界を破滅させるまでの力を持つようになりました。私たちは世界を創造された神の存在を無視し続けています。神のことばを無視するのではなくその言葉に生きることが大切であることを思い起こしましょう。

## 第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 10章 31節-11章 1節）

使徒パウロはとても大事なことを勧めてくれています。「何をするにしても、すべて神の栄光を表すためにしなさい」と。私たちはミサに与ることとか祈りをたくさん唱える事とかが一番大事だと勘違いしているのではないのでしょうか。「食べるにしろ飲むにしろ」とパウロは言っています。すなわち何をするにしてもその業を神の栄光のためにしなさいということを勧めているのです。どんなことをするにしても私たちは神の栄を讃えることになるのです。朝の祈りで一日を神に捧げ、寝るときに一日を感謝すること、これが大事なのです。

## 福音朗読（マルコによる福音書 1章 40-49節）

きょうの「世界病者の日」にふさわしく、イエスによる皮膚病の人の癒しが語られています。イエスのおられた時代はたくさんの皮膚病やそのほかの病気が流行っていました。確かな医者や薬がなかった時代ですから、多くの人が苦しんでいたでしょう。その苦しみをみてイエスはいても立ってもおられず、どこに行ってもそのような病気の人に声を掛け癒しを実行されていました。現代では設備の整った病院や薬、そしていいお医者さんがいますが、それでもなおたくさんの苦しんでおられる方がおられます。私たちはここ数年、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックを経験しました。それもなお消えてはいません。また私たちは「人をねたみ、攻撃し、痛めつける」という心の病気を持っています。それを直す特効薬はないのです。それはかみさまに直して、許していただくほかないのです。「よろしい、清くなれと」イエスに声を掛けてもらいましょう。





健康の恵みを感謝しましょう。（大縄跳び 足立サレジオ幼稚園 2023年）

**P.S.**

**今週の水曜日は「灰の水曜日」です。ミサ、「灰の式」は夜7時からです。この水曜日から四旬節という典礼の季節が始まります。復活祭までの期間です。今年の復活祭は3月31日です。喜びのうちにこの日を迎えらるるように心を清めましょう。**

**カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光**